



ドライバーに安全運転を呼び掛ける園児

## しげた保育園児が交通安全を呼び掛け

交通安全運動の一環として7月20日、しげた保育園（工藤敦子園長）の園児30人が、つがる警察署稲垣駐在所およびつがる地区交通指導隊稲垣支隊と合同で、交通安全路上指導を行いました。

これは7月21日から7月31日までの「夏の交通安全県民運動」に先がけて行われたもので、園児たちはみんなで声を合わせて「交通安全をお願いします」と元気に交通事故防止を呼び掛け、ドライバーに手作りのマスコットを手渡しました。マスコットには、事故のない社会を願う園児のあたたかいメッセージが添えられ、受け取ったドライバーは笑顔でお礼を言っていました。

## 食と健康の大切さを学ぶ

市食育推進応援隊（藤本フミ子代表）が主催する料理教室が8月6日、松の館調理室で行われ、親子連れなど28人が参加しました。

この教室は、子どもたちに食の大切さを学んでもらおうと毎年開催されているもので、今年は県が普及に取り組む「おいしく減塩！できるだしレシピ」から魚介だしのチャウダー作りに挑戦。子どもたちは慣れない手つきながらも一生懸命調理していました。また、立秋の節分にちなんで長さ7 分の恵方巻き作りにも取り組み、全員で息を合わせて見事に巻き上げました。向陽小1年の半田開士君は「ほうれん草とかんぴょうを並べるのが難しかったけど、うまく巻けた」と喜んでいました。



力を合わせて恵方巻きを作る参加者

## 健診センター建設工事の安全を祈願

「市総合健診センター（仮称）」建設工事の安全祈願祭が7月27日、つがる市民診療所西側に隣接する建設予定地で行われました。この施設は、つがる市における心疾患・脳血管疾患・糖尿病の死亡率が全国および県平均より高い、という現状を打開するため、医師・保健師・栄養士などが連携して積極的に保健指導などを行うことを目的としており、検診ホールやトレーニングルームなどが設置される予定。防衛省による再編交付金を活用し、来年3月の完成を目指します。式典には福島市長や市議会議員、工事関係者ら約70人が出席。神事が執り行われた後、福島市長は「健診の拠点としてだけでなく、市民の健康増進にも積極的に取り組んでいきます」と話していました。



玉串を捧げる東北防衛局の坪川企画部長

## 市が初の出会いイベントを開催 農婚 in Tsugaru

結婚を希望する独身男女に出会いの場を創出しようと、7月29日、30日、出会いイベント「農婚 in Tsugaru」が行われました。これは、市が結婚支援事業の一環として初めて開催したもので、男性は市内の農業従事者など12名、女性は県内外から9名が参加。メロン収穫体験や築120年の古民家での交流会など、つがる市の魅力が感じられる日程をとって、親睦を深めていました。

イベント最後のカップリングでは、残念ながらカップル誕生とはなりませんでしたが、参加した女性は「農業や経営について語る姿は頼もしかった」と話していました。なお、11月には趣向を変えた出会いイベントが開催される予定です。



古民家での交流会

## 鉢植えメロンで収穫を体験

イオンモールつがる柏で鉢植え栽培されていたメロンが収穫時期を迎え、8月17日、木造北保育園（新谷朋美園長）と川除保育園（三石理映子園長）の園児21人が収穫体験をしました。これは、メロンの成長過程をみることで、メロンに親しみ、興味を持ってもらおうと6月24日からつがる出張所前に設置されてきたもので、園児たちは栽培管理を担当した市農村青少年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）の3人に教わりながら、メロンのつるを切り取って収穫を喜びました。須藤愛菜ちゃん（木造北・5歳）は「チョコキッと切るのが楽しかった。食べるのが楽しみ」と話し、4Hクラブの坂本新会長は「たくさん子どもたちに、市産メロンのおいしさを知ってほしい」と話していました。



4Hクラブ会員に教わりながら収穫を体験する園児



収穫を楽しんだ一坪地主

## 収穫の喜びと甘いメロンを堪能

つがるにしきた農協による「メロン一坪地主」「メロン収穫体験ツアー」が今年も行われました。メロン一坪地主は、関東圏を中心に全国各地から1,132人（1,901口）の申し込みがあり、8月上旬につがるブランド認定のメロンが地主の皆さんに発送されました。8月3日から2泊3日で行われたメロン収穫体験ツアーには、110人の応募から抽選で選ばれた17人の地主が参加。木造越水地区の長谷川孝一さんのメロン畑で、ちょうど食べごろになった「タカミメロン」の収穫を楽しみました。川崎市から参加した前田香穂さんは「つがるのメロンは関東ではあまり聞きませんが、甘くておいしい。びっくりしました」とおいしそうに試食用のメロンを頬張っていました。

## 読書の楽しさに触れる

地域における読書活動を推進する「つがる市読書まつり」が8月18日、市立図書館で開催され、親子連れなど多くの市民が読書の楽しさに触れました。

まつりでは、おはなしサークル「おひさま」の松本文子さんが絵本「としょかんねずみ」の読み聞かせを披露。続いて稲垣読書愛好会の蝦名桂子さんが、津軽弁の昔話「みょうが」を語り、子どもたちは物語に聞き入っていました。

そのほか館内では、本探しゲーム&クイズなどの催しも行われ、来場者は本と触れ合いながら楽しそうに館内を散策。また、松の館の廃棄本を無料配布するコーナーでは、お気に入りの本を探し求めていました。



絵本の読み聞かせに聞き入る子どもたち



講演する茂木健一郎さん

## 脳科学者・茂木健一郎先生が講演

テレビでおなじみの脳科学者・茂木健一郎さんが8月18日、イオンモールつがる柏で「僕の心を支えてくれた本、目を開いてくれた本」と題して講演を行い、市内外から訪れた約150人が熱心に耳を傾けました。この日は市立図書館オープン記念イベントの講師として登壇。観客との対話や自身の経験を振り返りながらトークを展開し、本の魅力や読み方などを楽しく紹介しました。茂木さんは「読書はどこでもできる。雑音があるところで集中して読むことで集中力が養われる」「興味がなくとも他人がいいと言う本を読んでみることで、自分の世界が広がる」「感動した本を一生かけて何度も読み返すことで、本も自分も育っていく」などと話していました。